

# 3 巡目



## 四国あるき 遍路の旅

第11回



- 68番 神恵院
- 69番 観音寺
- 70番 本山寺
- 66番 雲辺寺
- 67番 大興寺
- 71番 弥谷寺
- 72番 曼荼羅寺
- 73番 出釈迦寺

回った順番に並べてあります。



令和5年11月17日～19日  
臨濟宗妙心寺派 圓福寺



### 高速バス停から歩きはじめ

高松空港から愛媛方面への空港リムジンバスは運行本数が少なく、乗り場も空港ビルのはじっこに追いやられています。あらかじめ乗り場を調べておいたので迷うことはありませんでしたが、初めての人は戸惑うに違いありません。無事、四国中央行きの空港リムジンで、観音寺の高速バス停で下車。

高速バス停とはいえ、ちょっと広くなった路肩にあるバス停から、階段を下りたら、畑の脇にある生活道路いきなり出るようになります。幸いにも、その道路は生活道路であると同時に、私たちが歩かせてもらう、67番から68番・69番へのへんろ道でもあるので、今回の歩きにはうってつけのバス停ということになるのです。



68番と69番は、看板も仲良くいっしょでした。



### なにはともあれ讃岐うどん

朝7:45に羽田を飛び立って、バスに乗り換えて観音寺、そして札所を目指して歩いていると、時刻はすでに11:45です。移動ばかりで4時間経過しています。それぞれのご自宅から羽田空港までの道程を入れたら、そんなものではないと思います。なかには、4時前に起きたなんて言う人もいたようですから・・・。

観音寺の札所に向かう途中に、おあつらえ向きに、なじみの「こがね製麺所」。まずは腹ごしらえということで、さぬきの味をお腹に入れて、第11回のあるき遍路がはじまりました。



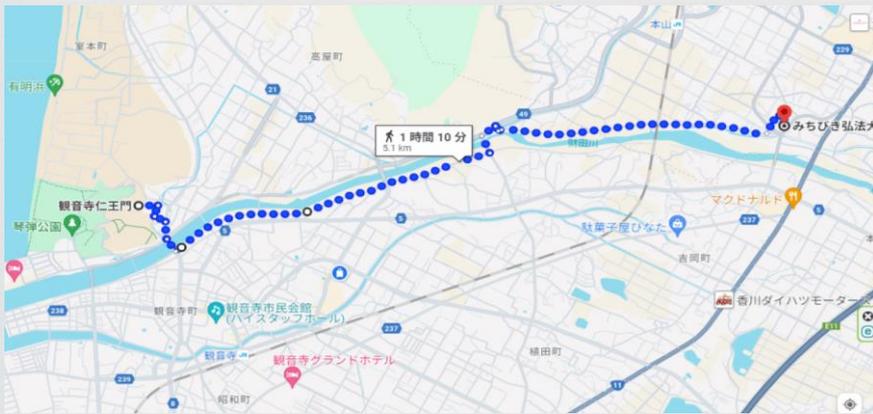
### 一か所で二度おいしい

サブタイトルに二度おいしいと書きましたが、讃岐うどんのことではありません。左の写真の通り、68番神恵院と69番観音寺は、仁王門をくぐった同じ境内にありますから、一か所でまとめて二か所のお参りをすることができるのです。とはいえ、それぞれの本堂と大師堂で合計4回、般若心経を読経することになります。お経はまとめてということはできませんからね。

札所を後にして、財田川を渡る時、瀬戸内からの強風で川面が大きく波立っていました。そろそろ、空模様が心配になってきました。

Title : 70番 本山寺

Date : 2023/11/17



### 突然の突風と横殴りの雨

時間的に余裕があれば、札所をお参りした後裏山に登り、琴弾公園にある巨大銭型を眺める所ですが、寄り道せずに次の本山寺に向かうことにしました。

遍路道は財田川に沿って、右岸を行くか左岸を行くかです。左岸は自動車の交通量が多い道ですので、交通弱者である歩き遍路には右岸が適しています。黒い雨雲が後ろから迫って来ており、いつ降り出すか気になる所でしたが、それは突然襲って来ました。ちょうど本山寺まで半分ほど歩いた時に、左手からの突風とともに大粒の雨に見舞われました。たまたまに雨具を身に付けようとするのですが、雨具を出す間にずぶぬれになり、カッパは風にあおられてなかなか身に付けられないといった有様でした。

ところが、雨支度をして歩いているうちに、さっきの雨風がうそのようにやむではありませんか。しかし、カッパを脱ごうかと思うとまた大粒の雨が降ってくるという天候不順でした。そんな雨風にもてあそばれながら、ようやく70番本山寺にたどり着いたのです。

雨風がなければ、川沿いの平坦な道を、遠くに見えてくる本山寺の五重塔を目指して、のんびりと歩くルートなのですが、残念！



前から、千三百年建立の国宝本堂。



結局、本山寺では雨の中、本堂と大師堂でお参りすることになりました。11月の雨の平日、時間も午後4時近く、ほかにお遍路さんがいるはずもなく、私たちの般若心経だけが境内に響きました。

本山寺には、私たちが入って来た仁王門（左写真）、大門、冠木門と三つも門があります。ここから本山駅に向かうのですが、大門から出ると往時の門前町らしさがわずかに残っていました。かつての遍路宿、商店など、昔は少し栄えたのだろうという街並みを歩いてみました。

本山駅から電車で観音寺、乗り換えて玉之江駅に向かい、駅前のこれまたさびれたアーケード街を通過して、ホテルに到着。フロント係は、ネパール人の女性でした。

Title : 66番雲辺寺

Date : 2023/11/18

### 雲辺寺への第三ルート、境目峠越え

7時20分にホテルを出発。タクシー分乗にて、雲辺寺への峠越えの入口まで連れて行ってもらいました。

愛媛、徳島、香川の交わる県境に位置する雲辺寺へは、愛媛から行くと2巡目で歩いた曼陀峠越えか、境目峠越えの2ルートがあり、徳島側からは1巡目で急登に苦労した、阿波遍路道雲辺寺道の計3ルートがあります。今回は、3ルートの残りのルート、境目峠越えを歩くことにしました。これで3ルート踏破ということになります。

「七田集落の境目峠登り口まで」と地元の人タクシ運転手さんに伝え、大船に乗った気でいたら、いつのまにか境目トンネルを抜けてしまいました。このまま行ったら、急登の雲辺寺道の歩きになると思い、トンネルを引き返してもらい、ようやく予定の境目峠登り口で下ろしてもらいました。国道にその登り口の道しるべもなく、脇道に入った所によりやく道しるべを見つけて、いよいよ二日目の歩きのはじまりとなりました。



歩き遍路の命綱である道しるべが目立たないのは、あまりこのルート歩く人がいないということです。3ルートの中で一番登りがきつくない代わりに、歩く距離が長くなるというデメリットがあるからです。急な登りを選ぶのか、長い距離の歩きを選ぶのか、人生の分かれ道みたいなものです。

## 旅の記録

期日	曜日	コ	ー	ス	予	定	食事・宿泊		
11月17日	金	各自羽田空港到着、チェックイン	7:45発	JAL475	9:05着	高松空港	【歩いた距離】約11.2km		
		空港連絡バス	10:33着	11:00発	一徒歩一	11:45着	【昼食】12:15発	昼食：こがね製麺所観音寺店	
		バス乗り場「O」	高速観音寺バス停	約3.1km	一徒歩一	15:00着	15:20発		
		一徒歩一	12:45着	13:30発	約4.5km	70番本山寺			
		一徒歩一	15:45着	15:58発	JR予讃線	16:03着	16:21発	夕食：活魚居酒屋「綱元」 0896-58-5812 ホテルセレクトイン四国中央 0896-22-3900	
11月18日	土	JR予讃線	16:39着	本山駅	16:45発	一徒歩一	17:00着		
		川之江駅	約0.8km	ホテルセレクトイン四国中央					
		18:30	夕食：活魚居酒屋「綱元」						
		6:30	7:20発	-タクシー-	8:10発	一徒歩一	10:00	【歩いた距離】約16.8km	
		ホテルにて朝食	ホテル	約12.2km	七田バス停	約10.4km	曼陀峠道合流点	昼食：タクシー途中で、コンビニ調達	
11月19日	日	12:20着	12:50発	13:00発	-ロープウェイ-	13:10着	【昼食】13:45発		
		66番雲辺寺	雲辺寺ロープウェイ	山麓駅					
		-タクシー-	14:00着	14:30発	一徒歩一	16:20着			
		67番大興寺	約6.4km	ホテルシェトワ観音寺					
		18:00	夕食：「はま寿司」					ホテル シェトワ 観音寺 0875-23-7722	
11月19日	日	7:00	7:30発	一徒歩一	7:50着	8:06発	JR予讃線	【歩く距離】約10.6km	
		ホテルにて朝食	ホテル	約1.2km	観音寺駅				
		8:24着	8:25発	一徒歩一	9:20着	一徒歩一	11:30着	11:45発	昼食：「鳥坂うどん」
		みの駅	約3.6km	ふれあいパーク「みの」	(トイレ休憩)				
		9:50着	10:30発	一徒歩一	11:30着	11:45発			
71番弥谷寺	弥谷寺仁王門	約3.5km	72番曼荼羅寺						
一徒歩一	12:00着	12:15発	一徒歩一	12:30	一徒歩一				
約0.6km	73番出釈迦寺	約0.6km	曼荼羅寺に戻る	約1.1km					
12:50着	13:50発	-タクシー分乗-	14:45着	各自琴平散策					
「鳥坂うどん」で昼食			琴平駅			普通寺タクシー 0877-62-1151			
15:25発	空港リムジンバス	16:16着	17:30発	JAL484	19:00着				
琴平駅前	高松空港	高松空港	羽田空港			【歩いた距離】約38.6km			

### 暴風雨から雪景色へ

愛媛と徳島県境の境目峠へは、登りを覚悟していたためか、難なくたどり着くことができました。峠には民家も点在していて、遍路道の峠としては生活感があり、ちょっと拍子抜けでした。

さて、ここからが長丁場です。とはいえ、道は自動車が通れるほどのへんろ道で、車が通れるほどですから、急登もなくくねくねと続いています。

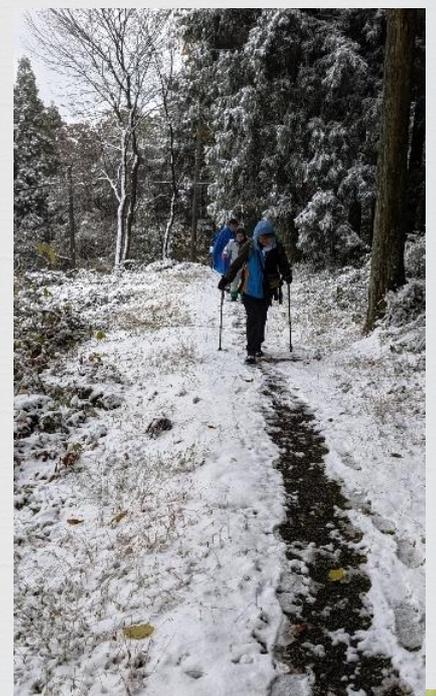
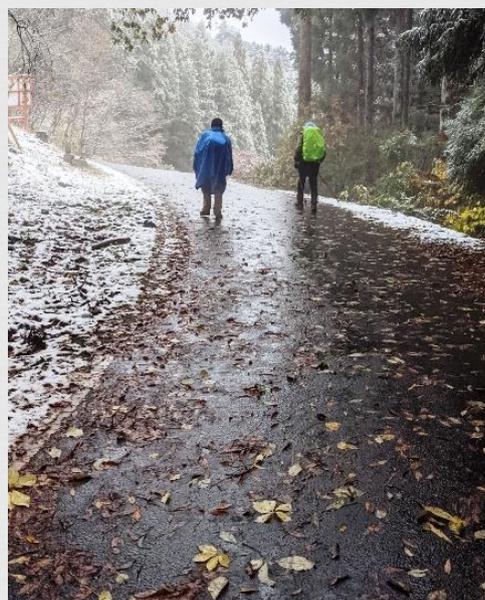
およそ2時間で曼陀峠からのへんろ道と合流して、そこからはだらだら坂の舗装道路となりました。途中、遠くの山を眺めると、頂上辺りは真っ白く雪化粧？でも、他人ごとではありません。坂を登るにつれて、木々の葉に雪、道の両側の草むらに雪、お寺の手前では私たちが歩くへんろ道にも雪という具合に、暦は秋なのに、真冬のあるき遍路になってしまいました。



【右上】境目峠からのへんろ道

【右】途中に大きな水溜り。よけること不可能！

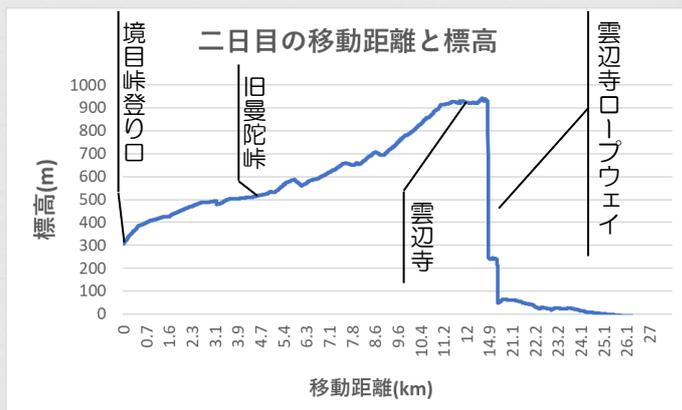
【左上中下】徐々に雲辺寺への距離が少なくなる道しるべ。「まだ着かないのー。」との声が聞こえてきます。



【上】行き手の山の木々は雪化粧しています。道の両側には積雪が現れてきました。  
【右】車道から遍路道に入った途端、雪道になりました。雪を踏みしめて、もうすぐ雲辺寺です。

Title : 66番雲辺寺

Date : 2023/11/18



### 極寒の雲辺寺！

雪景色の雲辺寺での読経は、お経の声まで氷る様な寒さでした。屋根に雪が積もった大師堂は、屋根からの落雪の恐れがあるため近寄ることもできずに、離れた所から読経致しました。大師堂前は風も強く、お経の声も風で飛ばされました。

集合写真を撮るために全員を待っている間に、わらじの足は感覚がなくなっていました。【左の写真】

Title : 66番雲辺寺から

Date : 2023/11/18

## 歩きでの下山を断念！

雲辺寺でお参りを終えると、時刻は午後1時近くでした。しかも、寒さや強風の中、お昼を食べる場所もなく、まだ昼食を食べていません。

予定より1時間遅れの上、この悪天候の中、67番大興寺まで9.4kmの下りは積雪もあり、転倒・滑落の危険が予想されたので、やむなくロープウェイでの下山を決断しました。の助けを借りることにしました。

ロープウェイ山麓駅は67番と離れた方にあるので、山麓からはタクシー分乗となりました。



## 昼食の不満も出ず！

いつものあるき遍路なら、お昼近くになると、「今日のお昼はどこで食べますか。」とか「そろそろお昼でしょうか？」などと某氏から声がかかるのですが、雲辺寺ではそんな声が聞こえてきませんでした。風雪をしのいで食べられる場所がなかったからかもしれませんが、もしかしたら、あまりの寒さにさすがの某氏の口も凍えてしまって、動かなかったのかもしれませんが。

## 歩きへんろ史上の最低気温！

ロープウェイ山頂駅は、瀬戸内を渡った寒気が吹き上げてきて、吹雪状態でした。麓に目をやると、陽に当たった観音寺の平野がはるか眼下に望めました。一瞬、この暴風でロープウェイが運休になったらどうしようという不安に包まれましたが、13:00予定通り出発するようで、ほっと一安心。

ロープウェイに乗り込んで、駅舎を振り返ると「只今の気温」が表示されていました。【右の写真】なんと、 $-3^{\circ}\text{C}$ 。2巡目の横峰寺でも雪道を歩きましたが、そこには温度計がなかったので不明ですが、この $-3^{\circ}\text{C}$ が圓福寺のあるき遍路史上最低気温と認定いたしました。



Title : 67番大興寺

Date : 2019/11/17



### 歩きへんろは裏口から

ロープウェイ山麓駅からタクシーで67番大興寺に着いた身では、いろいろ言えないのですが、雲辺寺から急な下り坂をずーっと下りて来ると、大興寺の裏口にたどり着くのです。門もなければ、いきなり大師堂に脇に立つことになるので、札所によろやくたどり着いたという感慨も感じられないのです。

今回、タクシーは山門の前に連れて来てくれたので、山門をくぐり、くすのきの巨木に覆われた石段を登って、本堂正面に立つことができました。タクシーに、重ねて感謝していいものかどうか、複雑なところですよ。

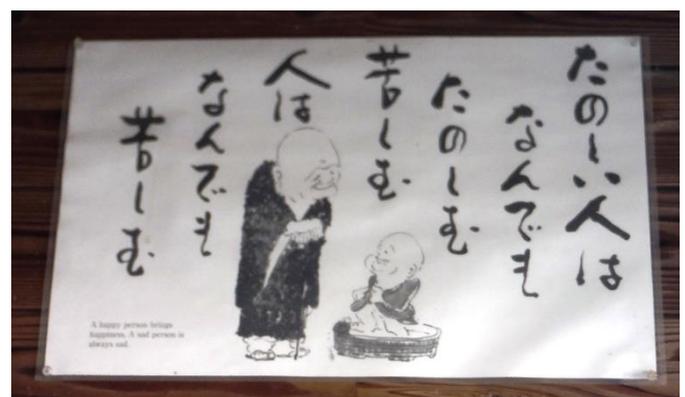
### すしからうどんのはしご

雲辺寺から長い下り坂を下って来るのだから、夕食はホテルの近くがいいだろうと思いき、二日目の夕食はホテル至近の「はま寿司」を計画しました。

ところが予定に反して雲辺寺からの下りがなくなってしまい、みなさん体力温存できたので、もう少し離れた場所でもよかったかもしれません。

今はどこの回転ずしでも、ラーメンやうどんといったサイドメニューがあるのが当たり前のようです。お寿司を食べた後に、ラーメンにしようかうどんにしようかと考えた時に、おおいなる疑問が頭をもたげます。ここは讃岐の国、いわずとした讃岐うどんの本家本元です。ここに来て、回転ずしやさんのうどんを食べるのが正しいのか、あるいはうどんの本場で出される回転ずしのうどんもおいしいはずだと考えるのか。さらに、ホテルの間の前には、讃岐うどんの店があるではありませんか。

私は、お寿司の後に讃岐うどんというはしごを選択しましたが、もう一つ選択肢があることに気づきました。回転ずしのうどんを食べてから、讃岐うどんの店でうどんを食べるということです。でもそれは、雲辺寺からの長い下り坂を歩いて、たくさんカロリーを消費した人間にだけ許されることかもしれません。



右の写真は、ロープウェイ山麓駅の休憩所に掲示されていたものです。



### 本堂まで約570段

仏教では、仏さんの住む山のことを「弥山」といい、弥谷寺は仏のいます谷のお寺という意味を込められているそうです。

その仏さんを祀る本堂は山の頂上付近に建てられているため、境内入り口から約570段の石段を登らなければなりません。雲辺寺を終えて、ほっとした身には結構応える参道です。

本堂の下にある大師堂は、札所中唯一、靴を脱いでお参りするお堂になっていました。



### 「俳句茶屋」跡形もなし

弥谷寺仁王門前に、昔は、両側に何軒かの店があったらしいのですが、だんだんすたれて、今回お参りした時には、「俳句茶屋」も跡形なく、更地になっていました。

長い石段を上り下りしてお参りして、そんな茶店で一休みして次の札所をめざしたのだと思いますが、車でお参りに来た人は、中腹の駐車場まで登ってしまうので、茶店に立ち寄る人も少なくなってしまうのでしょうか。遍路文化がまた一つなくなっていました。



### 道程、三者三様

弥谷寺から下りると、右に駐車場に降りる石段があり、遍路道はまっすぐ山の中に入っていきます。その分岐点に、ご丁寧にも三つの道しるべが立っていました。三つも立っていれば、歩きのお遍路さんも迷うことはないでしょう。

でも、よく見ると、距離はそれぞれ違っています。私たちが歩く時に見慣れている道しるべは3.1km、真ん中は3.3km、左のものは3.8km。歩きへんろにとっては、この数百mの差が大きく感じられるのです。あなたは、どの距離を信じて歩きましたか？



### 食べられないうどん屋さん

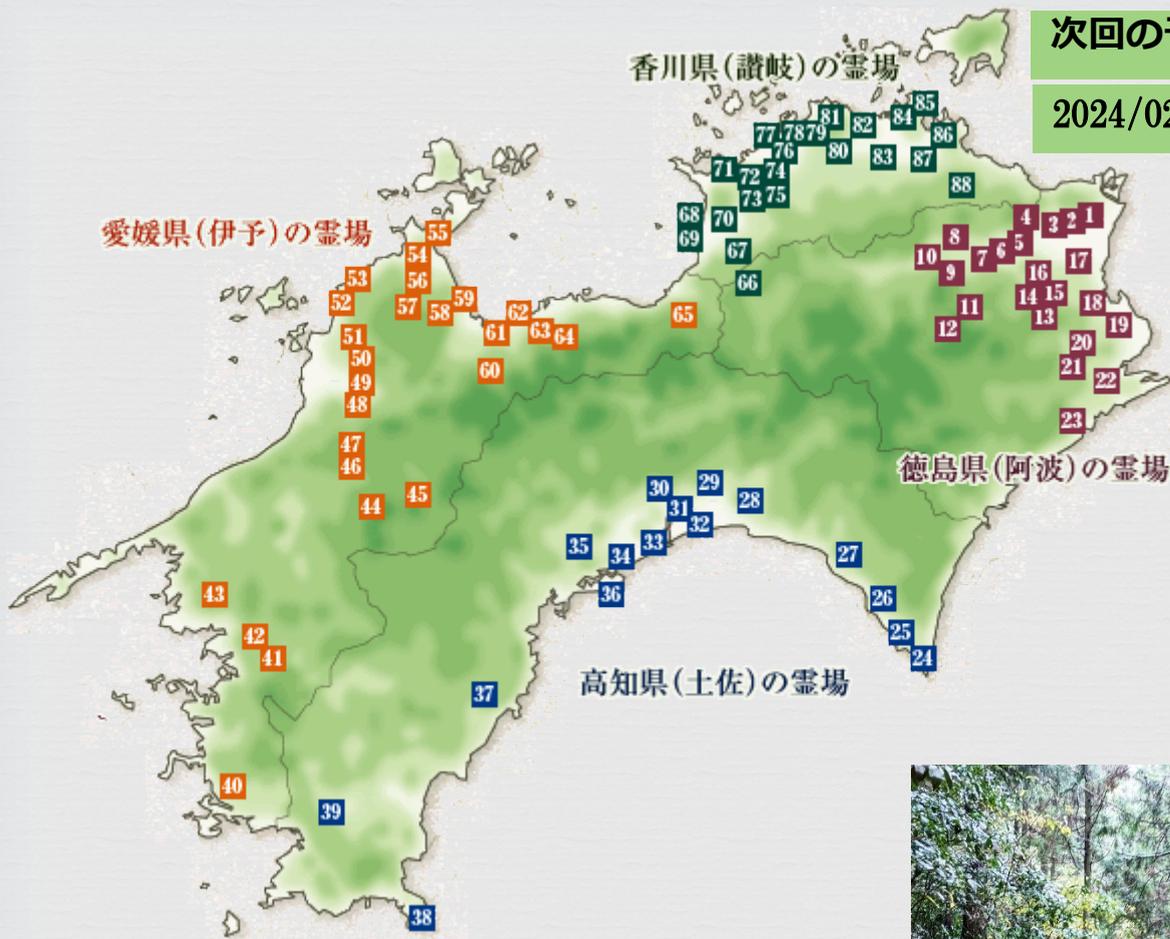
弥谷寺の仁王門まで下りてくると、時刻は10時半。ここから次の曼荼羅寺まで約3.5km、竹林を抜ける山道もあるから約1時間とみて、丁度曼荼羅寺あたりで昼食の予定とめどが立ちます。しかも、グーグルマップによれば、お寺の裏に「うどんの里 丸正」と表示があるので、おあつらえ向きとたかをくくっていました。

お寺に入る前に、丸正さんに立ち寄って、13人食べられますかと聞くと、うちは製麺所だからうどんを食べることはできませんよ、とのことでした。なんと、製麺工場だったのです。食べられないうどん屋さん、一同がっかり。お土産のうどんでしたら、と親切に教えてくれました。

### 2巡目で迷子になった出釈迦寺

73番出釈迦寺には、2巡目の苦い思い出があります。

お寺の裏山の高いところに見える建物は、奥の院「捨身ヶ嶽禅定」といわれ、弘法大師が幼き日に身を投じたという聖跡です。1巡目で今回と同じようにお寺から遥拝して、2巡目ではぜひお参りに行きたいと思い、裏側から登りついたのはいいのですが、途中で遍路道がなくなり、道なき道の急斜面を登ったのでした。危うく団体で迷子になるところでした。念願のお参りを終えて、出釈迦寺までの下りの急坂は、溶けた雪が氷になった状態で、ひやひやしながら降りて来たという、記憶に残る圓福寺の歩きへんろにとっての聖跡ともいえるべき場所です。



次回の予定

2024/02/16~02/18

74番~

## あとがき

第11回のあるき遍路で、ようやく讃岐に足を踏み入れました。

それにしても、温暖なはずの瀬戸内側だというのに、時ならぬ吹雪に見舞われてしまいました。つい数日前まで最高気温が20℃越えだったのがうそのようでした。しかも、雲辺寺山頂の気温は-3℃! きっと、圓福寺あるき遍路の中で、記憶に残る回になると思います。

その寒さによるインパクトのためか、手がかじかんでシャッターを押すのさえ難しかったのか、雲辺寺以外の札所にまつわる写真が

少なく、少々編集に手こずりましたが、なんとかかへたくそな写真集が出来上がりましたので、ご笑覧の上、次回の励みにしていただければ幸いです。

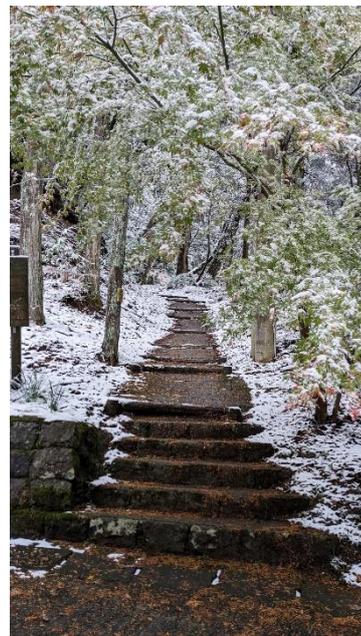
写真をたくさん撮って下さった小林さん、ビデオカメラを回してくれた西川さん、ありがとうございました。

次回は、今回の予定でお参りできなかった74番甲山寺から82番根来寺までお参りする予定です。いよいよ、札所も80番台に入ってきて、先が見えてきた感じがすると思いますが、最後まで気をぬかずに、全員無事に結願を迎えたいと思います。



## 圓福寺 四国あるき遍路の旅 3巡目第11回写真集

写真：小林 照彦さん  
西川 浩平さん (ビデオから)  
宮田 宗格  
文章：宮田 宗格  
編集：宮田 宗格



### 遍路を見守る樹々たち

上のくすのきは、69番観音寺の境内の古木。今まで何人の遍路を迎えて来たのだろうか？

左2枚は、雲辺寺に向かうへんろ道から見えた、雪化粧の木々。

上の石段は、雲辺寺に行く途中の歩きへんろ道入り口。この時期は、紅葉に覆われているはずなのに・・・。